

「EDF の主作業と実情」

Mr. Yves Garcier (EDF, 仏国)

フランスの原子力発電所の被ばく低減状況と今後の展開についての発表である。

EDF の作業、請負業者の集団線量の推移を見ると、**1992** 年頃にピークがあり、現在はピーク時に比べ、約 $1/2$ に低減している。EDF がこれまで取組んできた又は現在取組んでいる被ばく低減対策には、ソースターム管理とソースターム低減プロジェクト、線量低減のためのアクションプランの実施、線量管理システムの更新が挙げられる。ソースターム管理としては、pH 最適化や Zn 注入が挙げられる。Zn 注入は Bugey 2,4 号機で既に実施しているが、EPR では最初から Zn 注入することが決められている。

ソースターム低減プロジェクトでは、再汚染防止等の予防策及びホットスポットの除去等の対策を立案している。今後 5 年間の推定線量低減量は約 1Sv / 炉である。実施プランは Flamaville 1、Chinon2、Blyas 4、Gravelines3 及び Bugey2 である。

線量低減のためのアクションとして、ALARA アプローチがあり、最も高い線量のグループの被ばくを低減し、公平性を確保することが重要である。又、特定のジョブのためのアクションプランが策定されており、例として生体遮へいの改善が挙げられる。

線量管理システムの更新では、管理区域の出口にある個人汚染モニタを、 を測定するものに変更した他、**2009** 年には電子式線量計測システムを導入する。

今後の課題として、クリーンナップ・プログラム及び Zn 注入の継続により集団線量低減のための努力を継続するとともに、リモート・モニタリング・システム及び集中管理室の全発電所への導入を進めていきたい。又、今後は、被ばくの均質化、公平化にも取組み、放射線防護コミュニティへのコミットメントを進めていく。

